



鈴木理絵さん
NPO法人動物愛護団体L'Y'S T A代表。震災後、帰還困難区域に取り残された犬や猫の保護を目的に設立し、適正飼育の普及にも努める。

イラスト 274

命をつなぎ、命を考える場所に

Q 活動内容を教えてください。
私たちの活動は、帰還困難区域や市内で保護した犬や猫の命をつなぐための必要な世話を続け、適正飼育ができるなどの環境を整った新しい飼い主の元へ送り出すことです。
また、野良猫の一斉不妊・去勢手術を月に一回行っています。手術をした猫は片耳の先端が桜の花びらのようにカットされるので、さくらねこと呼ばれています。手術は病気の発症を防ぐだけでなく、一代限りの命を全うし、望まれない猫の繁殖や多頭飼育崩壊、住民トラブルや殺処分などを防ぐ重要な活動の一つです。さらに、学校などからの依頼がきっかけで、命の授業を行う活動も始めました。私たちは他の動物の命をいただいで生きていて、人も犬も



保護した猫を世話するシェルターで、餌を準備するスタッフ

猫も、同じ命ある動物だと認識し、大切にしなければいけないと伝えていきます。このような機会は今後も継続して増やしていきたいです。
Q 活動の反響はいかがですか。
野良猫の一斉不妊・去勢手術に市外や県外から参加する方も多くなり、手術の認知度が高まってきていると感じています。回を重ねるごとに手術頭数が増え、一日で百頭を超える手術を実施したときには、いわきでも殺処分ゼロのスタートラインに立てるかもしれないという希望が見え、活動に手応えを感じ始めました。
Q 今後の抱負を教えてください。
私たちが年齢を重ねるように、犬や猫も老い、やがては死を迎えます。動物を飼うことには責任が伴うため、自分の年齢や体力、家族構成を基に、



命の授業で、命の大切さを伝える鈴木さんと熱心に聞く中央台南中の生徒

一緒に暮らしていける大きさや年齢、そして管理できる頭数を考えて犬や猫を飼うことが重要で、このことを多くの方に理解していただく必要があると考えています。私たちが運営する里親募集型保護猫ふれあいサロン「Ohana」は、猫と触れ合いながら私たちの活動内容を知ってもらう場所になっているほか、犬や猫を飼うときのマナーやルールを教えたり、飼うことを悩んでいる方の相談に乗ったりしていますので、積極的に利用して欲しいです。
どんな犬や猫にも、幸せな人生と苦痛なく生きていける居場所が必要です。殺処分される不幸な命を減らし、温かな家庭で暮らしていける犬や猫が増えるよう、今後も使命感を持って活動を続けていきます。

絵はがきの 中の 「いわき」



絵はがきの形式

日露戦争（明治三十七―三十八年・一九〇四―〇五年）において、通信省は敵地における攻略や凱旋を記念して、記念絵はがきを発行しました。出征兵士に絵はがきが支給されると、その消費量は格段に増加し、当時の戦意高揚の風潮と相まって、記念スタンプ付きの絵はがきは飛ぶように売れ、関連の絵はがきも数多く発行されました。ところで、絵はがきには発行年月が記載されていません。そのため、イベ

宛名の部分しかなかった当初の絵はがき（写真左上）と、通信欄が宛名面の下部に三分の一規定されたもの



明治時代に誕生した絵はがきは、新聞と並んで、重要な情報伝達媒体として使用されてきました。絵はがきに残る当時の風景などを通して、いわきの歴史や文化をひもときます。

ントなどで年月が分かる場合は別として、大方の絵はがきは発行時期を推定するしかないのですが、法改正による絵はがきの宛名や文面の大きさなどの違いによって、ある程度類推することができると、これを時系列的に見ると、次の通りです。

- 発行時期を類推するポイント
- ▼明治三十三年（一九〇〇）年十月～明治四十一年（一九〇七）年三月二十七日
宛名と通信の区分が無い（全て宛名欄で、通信欄は無し）
- ▼明治四十年三月二十八日～大正七（一九一八）年二月二十八日
宛名の下部、三分の一を通信欄として確保
- ▼大正七年三月一日～昭和八（一九三三）年二月十四日
宛名面の下部、二分の一を通信欄として確保
- ▼昭和八年二月十五日～現在
宛名欄の上部は、それまで「郵便はがき」と後発の「郵便はがき」の表記が混在して発行されていたが「郵便絵はがき」の表記に統一

連載シリーズ

こんにちは市長室から 54



新型コロナとの闘いはワンチームで！

いわき市長 清水敏男

本市は本年1月30日に市新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、今日までさまざまな対策を講じているところです。
2月末に内閣総理大臣の要請を受け、3月4日から23日までの小・中学校の臨時休業、市主催行事の規模縮小・中止、公共施設の休館などを実施中、3月7日に本県初の罹患者が本市から確認され、その後クラスターが発生した際には市内に激震が走りました。

そこで4月13日に新型コロナに負けないプロジェクトチームを発足させ、医療従事者を支援すべくマスク20万枚や医療資器材の配布、クラブ・フォー・ケアーズの実施、宿泊所の無償提供のほか、福祉事業者・妊婦の方にマスク20万枚を、市民の皆さんに家庭用除菌液を配布しました。小・中学校などを4月18日から5月20日まで再び休業とする中、4月28日に市医師会・薬剤師会の協力の下、発熱外来を設置しました。5月8日に市議会臨時会を開催し、国の特別定額給付金や市独自の緊急経済対策に係る予算などが審議・可決され、現在対応しているところでありますが、現下の厳しい経済情勢を鑑み、第2・第3の経済対策も考えていきます。コロナとの闘いは持久戦です。ワンチームでいきましょう。